

# 1 国際学生寮「さくら」



2017年度 芸術学部美術学科 卒業  
 演元 祐佳  
 「記憶に溺れる」(油絵)  
 (162×112cm)  
 2017年度 卒業制作  
 卒業制作優秀作品、芸術資料館賞上作品

大学の国際化及びグローバル人材育成施策の一環として、日本人学生と外国人留学生が共同生活を行う国際学生寮「さくら」を平成30年4月に開寮しました。国籍や文化の異なる寮生が共同生活を行うことで、グローバルな視野を持ち、対人関係の構築や多様性を受け入れ共感する力に優れたタフな人材を育成することを目的としています。



多目的室で竣工式を行いました。

## 寮教育

国際学生寮は、居住機能に加え、教育的な視点も取り入れた学生寮です。人材育成コンセプトに示す人材育成を実現するため、多様な教育プログラムや交流プログラムを実施していきます。

### 教育プログラム

[日常生活の中で自主的に身につける「隠れた教育」の実施]

- ・日本人学生と外国人留学生との共同生活
- ・日常会話における母語以外の語学学習
- ・国際学生寮生活規則遵守による秩序ある寮内生活
- ・各種寮内会議による自律的な寮運営
- ・寮運営・交流プログラム等の企画及び積極的な参加 など

### 交流プログラム

[寮生・寮外学生・地域との交流]

- ・歓迎会・送別会
- ・異文化交流・国際理解  
(例：各国の料理パーティー、国別の催し事など)
- ・日本文化理解  
(例：お花見・節分などの季節行事、茶道・書道などの文化体験)
- ・外国語学習 (例：母語を教え合うピアティーチング) など

※詳しくは大学ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/aboutus/category0007/c00004420/>



## 私たち学生役職者がサポートします!!



# 1-1



1階

エントランスロビー

[エントランスロビー] 寮生の交流と憩いの場として、エントランスロビーを設けています。[多目的室] 講演イベント・研修会・会議など幅広い用途で利用できます。間仕切りにより3つに分割可能です。[共用キッチン] 各種イベントや寮生が共同で使えるキッチンです。[管理人室] 管理人は6時から22時まで常駐しています。

# 1-2



2階

和室

[和室] 書道や茶道等の日本文化体験のほか、さまざまな用途として利用可能です。[短期滞在用ユニット] (2ユニット20人) 海外学術交流協定大学等からの短期受け入れや、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」のほか、在学生の外国語集中特別講義などに活用できます。

# 1-3



3-6階

長期滞在用ユニット

[長期滞在用ユニット] (16ユニット96人) 日本人学生・外国人留学生計6人で1つのユニットを構成します。(個室部分6室)：ベッド、机などがあります。(共用部分)：キッチン・トイレ、シャワー、洗濯機、冷蔵庫などがあります。[交流スペース] 3～6階の各フロアにあり、各種会議やミーティングなどに使用できます。

# 2

## 広島市立大学塾(市大塾)



沖縄研修で訪れた嘉数高台の展望台

「広島市立大学塾」は、広く社会を見つめ、知識を習得し、感性、教養を培い、また体験することを通じて、自ら考え、判断し、行動する力を養い、社会における自らの役割を認識した新しい時代を担うリーダーを育成することを目標として、昨年度から開始した課外教育プログラムです。プログラム期間は10月から9月までの1年間です。春季、夏季には視察体験旅行も予定しています。知的好奇心を持って、学ぶ意欲の旺盛な皆さんの応募をお待ちしています。5月頃から募集を開始しますので、詳しくはウェブをご覧ください。



広島市立大学塾WEBページ

# 2-1



住宅地の公園と接する露天間基地

## 塾生 国際学部1年 可知 宗彦さん

私は市大塾の1期生として、このプログラムに参加しました。週1回という少ない時間であるため、他の授業や課題の負担になることもなく、専門家にお越しいただき多方面に渡る分野について貴重な話を聞くことができ、参加してよかったと思います。何より、少人数の塾であるため、グループディスカッションを頻繁に行えるのが良さのひとつです。また課題に対して考察力や自分の意見を持ち、それを人前で話す力などを、自分の意識次第でかなり伸ばすことができるのではないかと考えています。

# 3

## 地域を感じ考える「地域課題演習」始まる



COC+地域貢献特定プログラムの「地域課題演習」(全学共通系科目2年次)が昨年度から開講しました。地域を学びのフィールドとした授業で、初年度は60名が尾道市や安芸高田市、山口県上関町など6つの地域に設定されたテーマに取り組み、現地での体験や学びを通して地域の現状や魅力にふれ、キャンパスでは得られない刺激を受けました。学生の地域への関心が高まり、課題に向き合う意識が生まれています。

# 3-1



# 3-2



# 3-3



## 新入生の皆さんに贈る応援メッセージ

### 大学生活を始めるにあたって心に留め、実行してほしいこと



学長 青木 信之

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。心から歓迎します。皆さんの心の中心は、これからの大学生活への期待や新しい環境への不安など、さまざまな気持ちが交錯していると思いますが、学長として、大学生活のスタートにあたり、心に留め、実行していただきたいことをお伝えします。

これらが皆さんは、国際、情報科学、芸術の各学部で専門を学ぶこととなりますが、その前に「教養」とは何かということを考えてほしいと思います。「教養がある」とは、単に「知識がある」ということではありません。教養を身に付けるということは、単に幅広い知識を身に付けるということではなく、揺るがないコンパスを持つ自分を作り上げるということです。「教養のある人」というのは、本学名誉博士である村上陽一郎先生の言葉をお借りすれば、「一生かけて自分を作り上げていく」ということに邁進している。それを日常、実現しようと努力している人」ということです。

今後、皆さんはさまざまな能力に付けるでしょう。例えばプログラミングの技術や芸術の創作技術などを身に付けます。しかし、その技術を使って何をすべきか、何をすべきかは、いかに倫理的なことは専門の知識や技術が教えてくれるわけではなく、自らそれを教えてくれるのが「教養」です。自分の能力をどのように生かすべきかを教えてくれる、あるいは、欲望の限らない追求に対してストップをかける、そういった理性的基となるもの、それが「教養」です。皆さんには知識や技術と同時に「教養」を自分の中に取り上げてほしい、バランスのとれた人になってほしいと願います。また、このことは大学という高等教育機関で学ぶことができる恵まれた者、そして学問を修めようとする者の責任でもあります。

そのために皆さんに求めることは、本を読むことです。読書は読む者の姿勢次第ですべて自分を上げるための素材となります。本学には大量の読書、映画鑑賞、美術鑑賞を後押しする「知のトライアスロン」という仕組みがあります。教員から推薦された本や映画、美術などを味わい、その体験や感想について推薦した教員と対話する仕組みです。ぜひそういった仕組みも利用しながら、自分の内面を作り上げていく読書を心がけてください。

そして、ぜひ時間を大事にしてください。一生の中で、この大学時代ほど、自分自身で自由に考え使うことのできる「時間」を持っている機会はありません。

この時間を利用して、しっかりと自分を上げてください。それぞれに専門性を身に付け、そしてその専門的な知識・技術を使うための正しいコンパスである教養を自分の中に取り上げる。いったん社会に出ると、さまざまなことを経験する時間は簡単には取れません。また、どんな知識や技術を習得するにも時間がかかります。焦る必要はありません。しかし、自分たちが持っているのもっとも貴重なものの一つは時間であることの認識を持って日々を過ごしてほしいと思います。

自分という人間の基礎を形作るために、これらのことを心に留めて学生生活をスタートしてほしいと願います。4年後の自分をイメージしながら、自分の基礎を形作る「自分づくりのプロジェクト」をぜひ今日からスタートさせてください。

### Challenge yourself to do what you can here in Hiroshima and out in the world.



国際学部長 大庭 千恵子

これからの4年間で、国際学部という場では何ができるでしょうか。ここ広島で、世界各地から訪れる学生たちと夏期集中講座HIROSHIMA and PEACEに参加する。ゼミでのさまざまな研究活動やインターンシップあるいはボランティア活動などを通じて、地域社会や世界とつながる。確かな語学力を身に付けるために、海外学術交流協定大学への留学や短期語学留学などにチャレンジし、世界中で自分がいる場所を確かめる。

もし、あなたが目の前のチャンスをつかも努力を惜みず、自分で行動するならば、それは夢ではなく実現できる目標です。広島で、世界で。その経験がこれからのあなたを支えていくでしょう。

### 探究力と生きる力を修得しよう



情報科学部長 角田 良明

大学に在籍する期間は、人生の礎を築く貴重なものです。皆さんの長い人生からすれば極めて短いです。比較的自由に使える。入学しますが、何のために学ぶのかじっくり考えてみましょう。学びを通して、どのような知識や技能を習得し、どのような資質や能力を身に付けるべきでしょうか。それらが理解できれば、皆さんは主体的かつ対話的に勉強しさまざまな活動を体験することにより、未来を創造するために必要な探究力と生きる力を修得できるでしょう。情報科学部では、そのために必要な情報科学分野の専門科目をそろえているだけでなく、インターンシップ、留学などの活動の機会も提供しています。ぜひ、皆さんの夢の実現、未来の創造に向かって前進しましょう。

### 思考を深め、感性を磨く



芸術学部長 南 昌伸

皆さんは、既に次なる目標に向かって、新たなイメージを描き始めていることと思います。その目標達成に向けて、芸術学部では、芸術の基礎から高い専門性まで学ぶことができるカリキュラムと恵まれた学習環境を準備しています。主体的に行動し、日々の学習、制作に励んでください。これから始まる大学生活の中で、教員、先輩、仲間といった多くの人たちの価値観に触れ、思考を深めながら感性を磨き、独自の創作を生み出してください。学生時代に海外に身を置くことも貴重な経験となります。本学では、交換留学も身近なものとなっています。学生だからできる、学生でしかできない多くの経験を本学で積み上げてください。

## 活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

### 出会いが今につながる

日本画家 浅笠 水貫さん(芸術学研究科(博士後期課程)総合造形芸術専攻2017年度単位取得満期退学)

浅笠さんは、広島護国神社に奉納されるその年の干支をモチーフにした大絵馬を3年連続で制作しています。また、広島信用金庫日本画奨励賞(※1)の受賞するなど、その作品は高く評価されています。浅笠さんに、市大での学びや創作活動について伺いました。

一絵を描くようになったのはいつからですか。小さいころから絵が好きで、美術系の高校に通っていました。日本画を学びたいと思ったのは、卒業後の進路について迷っていた時期に京都の美術館へ日本画の展覧会を見に行ったことがきっかけです。愛知県に住んでいたのですが、通学中に電車で素晴らしいのですが、展覧会のことを目にし、勇気を出して一人で都京に足を運びました。そこで見て日本画が素晴らしい、日本画家になりたいと思うようになりました。

一広島市立大学芸術学部を志望した理由を教えてください。中学のときから通っていた美術教室の先生が広島出身で、市大がいいと勧めてくれました。さまざまな大学のオープンキャンパスに行きましたが、市大はキャンパスの雰囲気がとても良く、また、いろいろな先生がいらっしゃるのて幅広く指導を受けることができると感じました。そして、場所や環境を変えてみることも自分にとって良い影響があるのではないかと思います、市大に決めました。

一護国神社の大絵馬を制作したきっかけは？動物を主なテーマとして創作活動を行っており、そのことが縁になって大絵馬を制作することになりました。学部生のときには何を描けばいいのか迷う時期もありましたが、大学院に進学して以降は自分の描きたいテーマが徐々に定まってきました。動物は何かの象徴にされたり、また、いろいろなイメージを重ねることができると、制作テーマとしてとても魅力的です。

一絵を描くときに心がけていることは、？動物を描くときは、必ず実物をスケッチに行きます。取材をして描くというスタイルは高校生のころから変わっていません。昨年の干支である酉の絵を描いたときは、鶏の遺伝子を研究している広島大学の研究室で取材をさせていただきました。鶏は遺伝子の組み合わせでいろいろな変形になります。その多様性が魅力的で、面白いモチーフだと考えています。大絵馬の制作で鶏を取材してからもう2年になります。取材でお世話になった研究室には今でも通わせていただいています。学生だからできることや協力してもらええることもあります。最近では、取材をすることを通して価値観が広がったり、興味が膨らんだりしています。

一学生生活の中で印象に残っていることはありますか。長野県にある戦後画学生慰霊美術館「無言館」が広島で巡回展をした時に、ボランティアとして搬入出のお手伝いをする機会がありました。そこで知り合った無言館の館長さんは今でも私を応援してください、個展があると見に来てほしい、講演をされたりしています。ボランティアへの参加を通じていろいろな世代・分野の人と関



鶏を描いた作品「月曜日」

## 2017年度学生表彰

本学では、学内外で顕著な活動をした学生たちの表彰制度を設けています。2017年度は、次の学生が「学長奨励賞」「学生顕彰」を受賞しました。

**学長奨励賞**

上村 謙史 情報科学研究科(博士前期課程)知能工学専攻2年  
国際会議ADSNG2017において投稿論文を受賞。

大庭 孝文 芸術学研究科(博士後期課程)総合造形芸術専攻3年  
第四十四回創画展において奨励賞を受賞。

松本 千里 芸術学部デザイン工芸学科4年  
第10回東京ミッドタウンアワード「アー部門」において優秀賞を受賞。

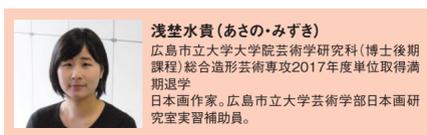
一絵を描くことができたのは、自分にとって大変良い経験になっています。また、絵を描いているからこそ、人と出会い知り合いになれたということが多くなってきたと感じています。市大の同級生や先輩、先生方との出会いもとても大きなものでした。才能がある人もすごく努力をしている世界なのだということを知り、とても励みになりました。そうした人たちが刺激を受けて、頑張らなきゃと思ったことがモチベーションにつながっています。

一いろいろな人との出会いが今につながっているのですね。大学院へ進学した思いは？もう少し日本画について勉強したい、進学しなくていいなと思って大学院に進学し、さらに表現を深めたいと考えて博士後期課程に進みました。創作活動を止めて就職することを考えたときもありましたが、展覧会の予定などを先に決めてしまい、やらざるを得ない状況で自分自身で作っていました。諦めている場合じゃないという状況にする、そうすることでなんとか続けることができて感じています。博士前期課程の頃までは、背伸びをして、とにかくがむしゃらに努力しなきゃいけないという使命感で動いていましたが、博士後期課程に進学してからは、いろいろな人に出会い、応援してくれる人ができたことなどがきっかけで、やっと素直に絵を描けることが多くなってきたと思っています。

一最近ではどのような活動をしていますか。2016年から始まったFlag of the West(※2)というアートプロジェクトがあり、3月下旬から4月上旬に東京の美術館や画廊で、日本画専攻の卒業生、在学生、教員らが展覧会を行います。最近はそのプロジェクトに出席する作品を制作していました。また、時期は未定ですが、広島信用金庫日本画奨励賞の副賞として個展を開催する予定です。

一最後に、後輩たちへのメッセージをお願いします。いろいろな年代の人に会うと良いと思います。興味がある人には自分から会いに行ったり、何かに参加したり、いろいろな価値観を知っていくことが大事だと思います。そこで全てを鑑賞みにせずに、好きなこと、嫌いなことを自分で選択していくことで、自分は何がしたいのか少しずつ見えてくるはずです。

(※1)広島にゆかりのある若手日本画家の支援を目的として2012年に創設された賞。  
(※2)2017年度は、次年度の学生が「学長奨励賞」「学生顕彰」を受賞しました。



浅笠 水貫(あさの・みずき) 広島市立大学大学院芸術学研究科(博士後期課程)総合造形芸術専攻2017年度単位取得満期退学 日本画家。広島市立大学芸術学部日本画研究室実習補助員。

### 学生顕彰

向地 由 国際学部国際学科4年  
ルワンダ留学中に留学先の大学でヒロシマセミナーを開催。

谷 隆彦 情報科学研究科(博士前期課程)情報工学専攻2年  
国際会議ADSNG2017において投稿論文を採択。

但馬 敦 芸術学研究科(博士前期課程)造形芸術専攻1年  
いまからめざす2017展において最高賞の山中源兵衛賞を受賞。

第16回西風新都駅伝大会実行委員会代表 実行委員長 梶田 綺女  
芸術学部美術学芸科油絵専攻4年  
第16回西風新都駅伝大会の企画・準備・運営に尽力。  
※学年は受賞当時

## 「いちだい」の留学プログラム

広島市立大学では、学生の興味・関心や目的・語学レベルなどに応じて、短期の留学プログラムから長期の留学プログラムまでさまざまな留学プログラムを提供しています。

○海外交流プログラム 期間は1週間～10日間程度で、夏季等の長期休業中に実施します。受け入れ先大学の学生との交流やホームステイ体験などを通じて、英語でのコミュニケーション能力の重要性を認識する未経験者歓迎のプログラムです。もう1つ日本画について勉強したい、進学しなくていいなと思って大学院に進学し、さらに表現を深めたいと考えて博士後期課程に進みました。創作活動を止めて就職することを考えたときもありましたが、展覧会の予定などを先に決めてしまい、やらざるを得ない状況で自分自身で作っていました。諦めている場合じゃないという状況にする、そうすることでなんとか続けることができて感じています。博士前期課程の頃までは、背伸びをして、とにかくがむしゃらに努力しなきゃいけないという使命感で動いていましたが、博士後期課程に進学してからは、いろいろな人に出会い、応援してくれる人ができたことなどがきっかけで、やっと素直に絵を描けることが多くなってきたと思っています。

○短期語学留学プログラム 期間は15～31日程度(プログラムによって異なります)で、夏季休業中に実施します。受け入れ先大学が提供する語学プログラムに実施します。現地でも歴史や文化も学び、単位も取得できるので、短期間で語学力アップを目指したい学生におすすめです。2017年度は合計27名の学生が参加しました。<行き先(2018年度予定)>モスクワ大学(ロシア)、オルレアン大学(フランス)、ハワイ大学マノア校(アメリカ)、西南大学(中国)

○海外学術交流協定大学等への学生派遣 期間は半年または1年間で、留学時期は大学により異なります。海外での生活に挑戦してみたい、語学力を本格的に伸ばしたい学生に向けた留学プログラムです。派遣先の大学で取得した単位は、一定の条件のもとで本学の単位に認定されます。2017年度は合計15名の学生を派遣しました。<派遣対象校(2018年3月時点)>ドイツ5校、フランス2校、アメリカ(ハワイ)1校、カナダ1校、韓国3校、中国3校、マレーシア1校、計7カ国16校。

○海外交流プログラム 期間は1週間～10日間程度で、夏季等の長期休業中に実施します。受け入れ先大学の学生との交流やホームステイ体験などを通じて、英語でのコミュニケーション能力の重要性を認識する未経験者歓迎のプログラムです。もう1つ日本画について勉強したい、進学しなくていいなと思って大学院に進学し、さらに表現を深めたいと考えて博士後期課程に進みました。創作活動を止めて就職することを考えたときもありましたが、展覧会の予定などを先に決めてしまい、やらざるを得ない状況で自分自身で作っていました。諦めている場合じゃないという状況にする、そうすることでなんとか続けることができて感じています。博士前期課程の頃までは、背伸びをして、とにかくがむしゃらに努力しなきゃいけないという使命感で動いていましたが、博士後期課程に進学してからは、いろいろな人に出会い、応援してくれる人ができたことなどがきっかけで、やっと素直に絵を描けることが多くなってきたと思っています。



ドイツ・ハンノーバー

○海外交流プログラム 期間は1週間～10日間程度で、夏季等の長期休業中に実施します。受け入れ先大学の学生との交流やホームステイ体験などを通じて、英語でのコミュニケーション能力の重要性を認識する未経験者歓迎のプログラムです。もう1つ日本画について勉強したい、進学しなくていいなと思って大学院に進学し、さらに表現を深めたいと考えて博士後期課程に進みました。創作活動を止めて就職することを考えたときもありましたが、展覧会の予定などを先に決めてしまい、やらざるを得ない状況で自分自身で作っていました。諦めている場合じゃないという状況にする、そうすることでなんとか続けることができて感じています。博士前期課程の頃までは、背伸びをして、とにかくがむしゃらに努力しなきゃいけないという使命感で動いていましたが、博士後期課程に進学してからは、いろいろな人に出会い、応援してくれる人ができたことなどがきっかけで、やっと素直に絵を描けることが多くなってきたと思っています。

○海外交流プログラム 期間は1週間～10日間程度で、夏季等の長期休業中に実施します。受け入れ先大学の学生との交流やホームステイ体験などを通じて、英語でのコミュニケーション能力の重要性を認識する未経験者歓迎のプログラムです。もう1つ日本画について勉強したい、進学しなくていいなと思って大学院に進学し、さらに表現を深めたいと考えて博士後期課程に進みました。創作活動を止めて就職することを考えたときもありましたが、展覧会の予定などを先に決めてしまい、やらざるを得ない状況で自分自身で作っていました。諦めている場合じゃないという状況にする、そうすることでなんとか続けることができて感じています。博士前期課程の頃までは、背伸びをして、とにかくがむしゃらに努力しなきゃいけないという使命感で動いていましたが、博士後期課程に進学してからは、いろいろな人に出会い、応援してくれる人ができたことなどがきっかけで、やっと素直に絵を描けることが多くなってきたと思っています。

○海外交流プログラム 期間は1週間～10日間程度で、夏季等の長期休業中に実施します。受け入れ先大学の学生との交流やホームステイ体験などを通じて、英語でのコミュニケーション能力の重要性を認識する未経験者歓迎のプログラムです。もう1つ日本画について勉強したい、進学しなくていいなと思って大学院に進学し、さらに表現を深めたいと考えて博士後期課程に進みました。創作活動を止めて就職することを考えたときもありましたが、展覧会の予定などを先に決めてしまい、やらざるを得ない状況で自分自身で作っていました。諦めている場合じゃないという状況にする、そうすることでなんとか続けることができて感じています。博士前期課程の頃までは、背伸びをして、とにかくがむしゃらに努力しなきゃいけないという使命感で動いていましたが、博士後期課程に進学してからは、いろいろな人に出会い、応援してくれる人ができたことなどがきっかけで、やっと素直に絵を描けることが多くなってきたと思っています。

## 第21回広島市立大学 芸術学部卒業・修了作品展

2018年2月14日から18日まで、広島市現代美術館および本学において、2017年度の卒業制作と修了制作の作品展が開催されました。日本画、油絵、彫刻、デザイン、工芸の作品が展示され、多数の来場者がありました。なお、卒業制作、修了制作から優秀作品がそれぞれ5点選出されました。

### 卒業制作優秀作品



染織造形「独歩の衆」 松本 千里



日本画「ろまん」 山田 実奈恵



漆造形「乾燥海洋生物箱」 中村 美緒



彫刻「Stand Up! Series」 高 瑞雪



日本画「白」 白川 麻実



染織造形「星降る夜屏風」 梅田 綾香



油絵「Phase」 甲斐 杏奈



金属造形「GEMME」 古川 千夏

### おめでとうございます

■本学大学院における博士学位取得者(2017年度 春季修了)

氏名(敬称略)	学位
柴谷 直明	博士(情報工学)

■本学大学院で認められた論文博士学位取得者(2017年度 春季修了)

氏名(敬称略)	学位
飯島 聡志	博士(情報工学)

■芸術学部の教員らがTokyo Midtown Award 2017で受賞  
2017年10月、芸術学部の七瀬綾乃助教がデザインを、芸術学部デザイン工芸科染織造形4年の松本千里さんが優秀賞を受賞。

■芸術学研究所の学生らが創画展で受賞  
2017年10月、芸術学研究所(博士後期課程)総合造形芸術専攻3年の大庭孝文さんが奨励賞を受賞。同(博士前期課程)造形芸術専攻2年の田頭礼華さんおよび卒業生が多数入選。

■芸術学部の卒業生がスタンがいついば芸術祭で受賞  
2017年10月、芸術学部卒業生の花田梨奈さんがスタンアートアワード(グラフィック)を受賞。

■野田弘志名誉教授が中国文化賞を受賞  
2017年11月、野田弘志名誉教授が第74回中国文化賞を受賞。

■情報科学研究科の教員らが日本図書館情報学会論文賞を受賞  
2017年11月、情報科学研究科修士の福田信志さん、情報科学研究科の難波英剛准教授、竹澤寿幸教授が発表した論文が、第6回(2017年度)日本図書館情報学会論文賞を受賞。

■情報科学研究科の学生がデザインガイア2017で受賞  
2017年11月、情報科学研究科(博士前期課程)情報工学専攻2年の久保田直弥さんが最優秀ポスター賞を受賞。

■情報科学研究科の教員らがEDO 2017で受賞  
2017年11月、情報科学研究科(博士前期課程)知能工学専攻2年の上村謙史さん、情報科学研究科の目良和也助教、馬澤義明助教、竹澤寿幸教授が発表した論文が最優秀論文賞(Best Paper Award)を受賞。

■情報科学部の学生が日本生体工学会で受賞  
2017年11月、情報科学研究科システム工学科4年の永井美和さんが優秀賞を受賞。※信州大学、大阪大学との共同研究

■情報科学研究科の教員らがThe 8th Pacific-Rim Symposium on Image and Video Technologyで受賞  
2017年11月、情報科学研究科の古川亮准教授、宮崎大輔准教授、馬場雅志講師、日浦慎作教授らが発表した論文がBest Presentation Paper Awardを受賞。

■芸術学研究所の学生が県民文化奨励賞を受賞  
2017年12月、情報科学研究科の永山山教授が発表した論文が最優秀論文賞を受賞。

■情報科学研究科の学生がインターネットと運用技術シンポジウムで受賞  
2017年12月、情報科学研究科修士(博士前期課程)情報工学専攻1年の加藤剛徳さん、林健汰さんが優秀論文賞を受賞。

■情報科学部の学生が人類学学会西日本地方会で受賞  
2017年12月、情報科学部システム工学科4年の早田桃子さんが若手優秀発表賞を受賞。

■情報科学研究科の永山教授が多値論理フォーラムで受賞  
2018年1月、情報科学研究科の永山山教授が発表した論文が多値論理フォーラム優秀論文発表賞を受賞。

■芸術学研究所の修了生が芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞  
2019年3月、芸術学研究所(博士後期課程)総合造形芸術専攻修了生の岩崎貴宏さんが、平成29年度(第66回)芸術選奨文部科学大臣新人賞(美術部門)を受賞。

※学年は受賞当時

### 市大ニュース

■平成29年度「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPIT)」(enPIT-Pro)に選定  
平成29年9月、本学情報科学研究科が九州市立大学など4大学とともに申請した「人材育成事業が、平成29年度「大学教育再生戦略推進」成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPIT)」(enPIT-Pro)に選定されました。

■芸術学研究所の学生がヒロシマ・スカラシップ2017の奨学生に選出  
2017年10月、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻1年の佐岡祥さんがヒロシマ・スカラシップ2017の奨学生に選ばれました。

※学年は当時

■国際学部の学生が災害ボランティア体験を発表  
2018年1月、広島市役所本庁舎で広島県震災復興支援活動推進員との合同開催され、国際学部4年の新任杉藤さんが災害ボランティア活動について体験発表を行いました。

※学年は当時

■卒業式・学位記授与式を開催  
2018年3月29日(金)、広島市立大学卒業式・学位記授与式が挙行され、晴れて卒業・修了を迎えた卒業生394名および博士前期・後期課程修了生93名に学位記が授与されました。

■2018年度オープンキャンパス開催日のお知らせ  
2018年度は、6月17日(日)【プレ・オープンキャンパス】、8月5日(日)【オープンキャンパス】、10月8日(月・祝)【ライブ・キャンパス】に開催します。

■広島市立大学基金を創設しました  
教育、研究、社会貢献等の一層の充実と振興に資することを目的として、広島市立大学基金を設立しました。本基金の趣旨に賛同いただける皆様からのあたたかに寄附をお待ちしております。ご寄附いただいた方には、大学オリジナルグッズをお贈りします。

### 2018年度 学年暦(前期)

前期(4月1日～9月30日)	
4月1日(日)～8日(日)	春季休業
4月3日(火)	入学式
4月3日(火)～6日(金)	オリエンテーション
4月3日(火)～6日(金)	定期健康診断
4月9日(月)	前期授業開始
4月9日(月)～20日(金)	前期履修手続期間
5月31日(木)～6月6日(水)	第1ターム試験期間
6月14日(木)	開学記念日(授業実施)
7月26日(木)・27日(金)	前期補講日
7月31日(火)～8月10日(金)	前期定期試験
8月11日(土)～9月30日(日)	夏季休業
8月13日(月)	全学休業日

■クォーター制について  
2018年度から2学期制を維持しつつ、前後期を半分に分けたタームでも授業を行うクォーター制を併用導入します。

### 役員等選任(異動分)

役職名	氏名
国際学部長	大庭千恵子
国際学部副学部長	岩井千秋

### 教員の人事異動

区分	氏名	職名
退職	赤星 晋作	国際学部教授(3月31日付)
	佐藤 深雪	国際学部教授(3月31日付)
	曾根 幹子	国際学部教授(3月31日付)
	柴 竹民	国際学部教授(3月31日付)
	島山 泰貴	情報科学研究科助教(2月28日付)
選任	河本 悠	情報科学研究科特任助教(3月31日付)
	中田 一紀	情報科学研究科特任助教(3月31日付)
	山浦めぐみ	芸術学部助教(3月31日付)
	近藤 寛子	情報科学研究科特任助教(2月28日付)
	諏訪 敦	芸術学部助教(3月31日付)
転任	井手吉成佳	国際学部准教授(4月1日付)
	山口 えり	国際学部准教授(4月1日付)
	武田 悠	国際学部講師(4月1日付)
	寺井 里沙	国際学部講師(4月1日付)
	原 雅樹	国際学部講師(4月1日付)
昇任	藤原 優美	国際学部講師(4月1日付)
	平見 信之	情報科学研究科特任助教(4月1日付)
	吉貫くらら	芸術学部助教(4月1日付)
	佐藤 晋夫	広島市立大学研究員(4月1日付)
	柿木 伸之	国際学部教授(4月1日付)
昇任	田中 公一	情報科学研究科教授(4月1日付)
	福木 雅人	情報科学研究科講師(4月1日付)
	中山 仁史	情報科学研究科講師(4月1日付)

### 「WEST BREEZE」へのご意見・ご感想を募集します

広島市立大学 企画・広報委員会  
 ○E-mail:kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp  
 ○Tel:082-830-1666 ○Fax:082-830-1656  
 WEST BREEZEのバクナバーは、大学ウェブサイト「大学紹介」>「大学広報」>「広報誌「WEST BREEZE」」に掲載しています。

### 広報誌名

広島市立大学広報誌の表紙タイトル「WB.B」(「WEST BREEZE」の略称)は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。編集・発行／広島市立大学 企画・広報委員会 発行日／2018年4月1日